

まんさく



Niimi University

2023 | <https://www.niimi-u.ac.jp>



新見公立大学 全世代型地域包括ケア研究センター
開設記念シンポジウム

全世代型地域包括ケア 研究センター開設

Events & News

各学科での取り組み紹介

夢に向かって

活躍している学生たち

教員の活動紹介

看護学科教授 井上真一郎

同窓会だより

在学生状況

お知らせ

卒業生進路状況

講師

元厚生労働省事務次官
本学客員教授

蒲原 基道 先生

山間地域における共生社会と地域包括ケア

Vol.

65

全世代型地域包括ケア研究センターが開設されました！



近年、主に高齢者を対象として構築が進められてきた「地域包括ケアシステム」ですが、人口減少、家族・地域社会の変容、保健医療福祉ニーズの多様化にともなう深化が求められています。特に中山間地においては、過疎化や少子高齢化の進行、高齢者世帯の増加、集落機能の低下、集落戸数の減少によるコミュニティ機能の低下、産業活動の低迷、社会資源の不足等の「課題先進地」と呼ばれており、これらの課題解決を目指すには「中山間地域における全世代型地域包括ケアシステム」の構築が急務と言われております。

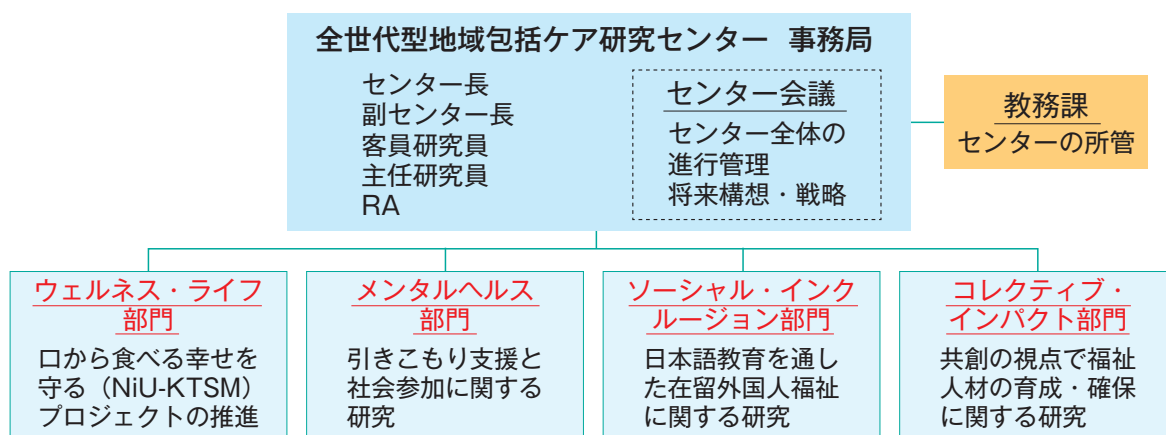
本学においても、「中山間地域における全世代型地域包括ケアシステム」の構築に向けて、2023年度4月に課題の解決を進める実践的指導者、ならびに研究者、教育者の育成のために「大学院・健康

科学科」を立ち上げました。そして、その実現に必要な要素を研究し、中山間地域の新見市で全世代型地域包括ケアの実践モデルの構築を目指して「全世代型地域包括ケア研究センター」を創設しました。

全世代型研究センターでは各部門で4つの「プロジェクト研究」を推進することで、この目的達成を目指しています。「ウェルネス・ライフ部門」では、摂食嚥下認定看護師の養成及びNiU-KTSM(口から食べる幸せを守る)プロジェクトに関する研究を実施します。「メンタルヘルス部門」では、中山間地域の引きこもり支援と社会参加に関する研究を行います。「ソーシャル・インクルージョン部門」では、新見市の在住外国人に対する日本語教室を開設し、その効果について検証します。「コレクティブ・インパクト部門」では、産学官民が共創することにより、中山間地域での持続可能な地域づくりに関わる福祉人材の育成・確保に関する研究を行って参ります。そしてこれらの4つの部門それぞれがプロジェクト研究を行うことで、各部門での「新見モデルの構築」を目指していきます。

本センターの構成員は、大学院健康科学科地域福祉学専攻の高杉公人教授がセンター長で、副センター長は大学院健康科学科の専攻長2名が務めます。また、学外から、高い専門性をお持ちの方々を客員研究員としてお招きして今後のプロジェクト研究の推進にご協力頂きます。更に、プロジェクト研究のコーディネイト役を務める主任研究員1名、そして本センターの業務補助役として今のところ大学院生2名に、リサーチアシスタントとして関わってもらっています。このような体制で、全世代型地域包括ケア研究センターのプロジェクト研究を推進して参ります。

2023年度全世代型地域包括ケア研究センターの概要



各部門での新見モデルの構築

開設記念シンポジウム

「中山間地域における全世代型地域包括ケア：実現に向けた課題と展望」

＜開催趣旨＞

2023年6月24日(土)に、全世代型地域包括ケア研究センター開設記念シンポジウムを開催しました。本シンポジウムでは、産官学民それぞれの立場から中山間地における全世代型地域包括ケアの実現に向けてユニークな実践活動を行っている先駆者の方々に本学にお越し頂き、実践事例をご紹介頂くとともに、本学の「大学院・健康科学研究科」及び「全世代型地域包括ケア研究センター」が今後の教育・研究・実践活動を進めていく上で課題及び展望に関するご助言を頂くことを目的として実施しました。

＜挨拶＞

シンポジウムでは、公文裕巳本学学長と戎斉新見市長から開会挨拶を行いました。続いて加藤勝信厚生労働大臣が来賓挨拶として、国としての地域包括ケアや地域共生社会の構築に向けた方向性をご説明頂きました。

＜基調講演＞

厚生労働省事務次官を務められた、蒲原基道本学客員教授に「中山間地域における共生社会と地域包括ケア」というテーマで基調講演をして頂きました。蒲原教授は、介護保険から地域包括ケアの流れを説明頂いた後に、高齢者中心の地域包括ケアを深化させて、すべての人を対象にした分野横断的な支援を提供できる地域共生社会を構築する必要性を説かれました。

＜シンポジウム＞

シンポジウムは、中山間地域の持続可能な未来の構築を産学官民協働で目指すための課題と展望について考察することを目的に開催されました。学の代表として高杉公人研究センター長が研究センターの概要を説明した後、官の代表として新見市福祉課の福田伊佐子課長補佐が新見市の重層的支援体制整備事業の現状と課題について説明しました。そして民の代表として長野敏宏 御荘（みしょう）病院診療所長が愛媛県愛南町の精神障害がある人もない人も共に暮らす共生社会づくりの実践紹介を行い、またPS瀬戸内株式会社の石原達也代表取締役社長から、新しい資金調達の手段であるソーシャルインパクトボンドを活用した健康ポイント事業「ケンコー大作戦」を御紹介頂きました。そして最後に、元厚生労働省専門官の高原信幸本学客員准教授から総括コメントとして中山間地域で包括的支援体制を構築するための課題と展望をご説明頂きました。



公文裕巳学長



加藤勝信厚生労働大臣



蒲原基道客員教授



戎斉新見市長



高原信幸客員准教授



高杉公人研究センター長



PS 瀬戸内株式会社
石原達也代表取締役社長



長野敏宏 御荘病院診療所長



福田伊佐子新見市福祉課 課長補佐

地域福祉学科

「先輩と語る会」開催

地域福祉学科では、大学地域福祉学科1期生3名(植木桃子さん、栗原茉莉子さん、松原瑠花さん)を招き「先輩と語る会」を6月6日に実施しました。先輩から、仕事内容について、就職活動や卒業論文執筆、国家試験の勉強などいろいろな話を伺いました。4年生からは、「就職活動の話が参考になった」「普段は聞くことのできない話が聞けて貴重な機会となった」「今抱えている不安や悩みがとてもスッキリした」などの感想が聞かれました。



先輩たちの講演



グループに分かれてお話を聞きました

健康保育学科

保育内容「環境」 ネイチャーゲーム

保育内容「環境」の授業では、ネイチャーゲーム(五感で楽しむ自然体験プログラム)を学んでいます。6月15日は、2年次生が「カモフラージュゲーム」「目隠しゲーム」「わたしのワンピース」などのゲームを楽しみました。

さらに、7月2日には広く希望者を対象に一步進んだネイチャーゲーム入門講座を本学で開催しました。本学学生だけでなく新見市の保育教諭も参加され、和気あいあいと楽しみながらネイチャーゲームの指導法や理念等を学びました。



目隠しゲーム



カモフラージュゲーム

看護学科

健康生活援助技術論 ベッドメイキング演習

健康生活援助技術論において、対象の療養する環境を整えるための技術の一つであるベッドメイキングの演習を行いました。学生は演習前に、技術項目の方法を教科書など参考にしながらまとめた後、学生に配信されている動画を視聴し、援助技術の方法をイメージしてから演習に臨んでいます。対象にとって心地の良いベッドを作るための方法を習得するために学生全員、真剣に取り組んでいました。



初めて白衣を着て行う演習



2人で力を合わせてベッドを作っています

老年看護学援助論 高齢者擬似体験演習

2年次の老年看護学援助論にて、高齢者擬似体験演習を行いました。学生は円背ベルトや視野狭窄ゴーグルなどの擬似体験セットを装着したうえで、学内の様々な場所で写真のように、文字の読み書き、階段昇降など、それぞれのメニューに沿った体験をしました。演習のレポートからは、加齢変化と生活への影響を理解し、高齢者にとって望ましい生活環境や援助のありかたについて考えることができたことが読み取れました。



図書の紹介カードを記載



介助のもとで階段昇降

健康の森学園支援学校での授業見学

「知的障害者教育課程論」における学びを深化させるために、5月に健康保育学科3年生が健康の森学園支援学校を訪問し、小・中学部、高等部の児童生徒の授業を参観しました。この科目は、特別支援学校教諭一種免許状を取得するための必修科目の一つです。

児童生徒の実際の学びを参観することで、多くの学生は、一人一人の実態に応じた教師の関わり方や教室環境についての気づきを得ることができました。



健康の森学園支援学校の先生のご講話を受講している様子



学校見学の様子

訪問介護実習の学び

介護福祉実習Ⅳとして、訪問介護員さんに同行しご利用者宅を訪問しました。施設実習とは異なり、ご利用者の生活を継続する為にどのような視点を用いて家事等の支援を行っているのか、訪問介護サービス等が入らない時間帯にもご利用者が安全に快適に過ごすためにどのような工夫が必要かなど様々な点を学ぶ事が出来ました。また、老人保健施設から自宅へ退所する際のカンファレンスにも参加させていただき、ご利用者に対してそれぞれの専門職がどのように居宅支援を行っていくかという他職種連携の様子を見ることが出来ました。今回の経験をこれからの学びに繋げていきたいと思えます。

(地域福祉学科4年 御座岡 天虹)



訪問介護実習中

地域福祉学科

共生社会実践演習Ⅰで田治部ふれあい花まつりに参加しました！

2023年6月11日(日)に田治部地区の花まつりに参加し、学生は子どもが楽しめるブースとして「紙コップ風鈴づくり」と「千本引き・スリッパかご入れ」を企画し出店しました。当日は地区外からも多くの方が来場し、多世代の方との交流を楽しみました。本演習は2年次から約2年間、同一地域で住民の方と関係を築き、地域課題の発見や解決に向けた取組を検討し実践する科目です。地域での活動や学びを通じた17人の学生の今後の変化や成長に期待しています。



スリッパかご入れ



紙コップ風船づくり

健康保育学科

「表現あそび、紙しばい劇」

2023年7月27日、「保育内容「表現」(身体表現)」(1年生)の授業の一環として、表現あそび指導者の今井亜紀先生(元兵庫県立ピッコロ劇団、俳優)をお招きして、幼児や子どもを対象とした表現あそびや、紙しばい劇を上演していただきました。

この「紙しばい劇」の特徴は、客席参加型の舞台です。学生たちは、ただ舞台を鑑賞するだけでなく、ときには舞台に登場したり、出演したりします。また、紙しばいはもちろんのこと、舞台に登場するさまざまな小道具もすべて手作りです。学生たちは、身体表現、造形表現、言語表現が一体となった、紙しばい劇や表現あそびを通して、表現活動の奥深さを学びました。



表現あそび



紙しばい劇

助産学専攻科

新生児蘇生法演習

妊娠や分娩が順調であっても、出生直後の新生児の子宮外生活への適応がうまくいかないことがあり、助産師も蘇生を行うメンバーの一人となります。分娩介助実習に出る前から助産学生は、高度な医療機関で蘇生を実践されている小児科医師の指導のもと演習を行っています。当科では在学中に新生児蘇生法(Aコース)の受講修了を目標としています。産婦さんとそのご家族の安心につながる助産師の役割である分娩介助技術とともに新生児蘇生法の習得を目指して日々奮闘中です。



新生児蘇生法の技術演習の様子

「大学院生・RAとして」

有井愛絵・後藤梨加（大学院博士前期課程 1年）

私たちは現在、大学院生として養護教諭についての学修や研究をしながら、RA（リサーチ・アシスタント）として看護学科の講義の補助や全世代型地域包括ケア研究センターでの勤務を行っています。

大学院では、看護職者として働かれている方々と講義を受けており、医療現場の実際の様子なども教えていただきながら、教育と看護両方の視点での学びを深めることができます。

RAでは、基礎看護学の演習にTA（ティーチング・アシスタント）として準備や補助をしたり、養護教諭養成課程の養護実習補助を行ったりしています。また、全世代型地域包括ケア研究センター開設記念シンポジウムや鳴滝塾の運営にも関わらせていただき、プロジェクトを企画・運営するプロセスや難しさを学ぶことができました。大学院生としての学修やRAとしての活動を通して、多くの方々から協力をいただきながら大学生時代にはできないような貴重な学びや経験をさせていただいています。養護教諭として学校現場で活躍できるように、今後も支えてくださる方々への感謝の気持ちを忘れず、経験を積み、学びを深めていきたいと思えます。



夢に向かって



韓国の延世大学（Yonsei University） との第1回交流会を終えて

久山晴大、高橋芽衣、藤本乃彩、丸岡由麻、吉田匠吾
（地域福祉学科 4年）

私たちは、2022年10月に本学と学部間学術交流協定を結んだ韓国の延世大学との国際交流として2023年3月25日～3月29日の5日間、韓国を訪問しました。

日本と韓国は近いこともあり、街並みなど似ている点もありましたが、食文化やコミュニケーション方法など、生活の至るところで文化の違いを感じました。

延世大学セブランス病院見学では、韓国の医療提供体制や病院の歴史について学びました。病院の敷地内に葬儀場や結婚式場があることに驚きました。

また、2日間は延世大学未来キャンパスで過ごしました。保健行政学部の授業と「全国民ケア保障政策セミナー」に参加し、韓国の急速な高齢化や家族介護の現状、コミュニティケアなどについて学びました。

延世大学の学生と2日間交流を通して、言語が異なっても、積極的にコミュニケーションを取る姿勢が特に重要であると感じました。ガールズトークで盛り上がったり、好きなアニメやアイドルの話など、本当に楽しい時間を過ごすことができました。2日間という限られた時間でしたが、ここまで深く交流ができたことに私達が一番驚いています。

この訪問を通して、知らない土地でも自分達の力でコミュニケーションを取れたことは私達の自信になりました。今回の訪問をサポートしてくださった皆様、本当にありがとうございました。

（地域福祉学科 4年 高橋 芽衣）

中山間地域における一般病院の 精神科治療やケアの充実を目指して



健康科学部 看護学科 教授 井上 真一郎

*以下、学生さんとのやりとりです。お気軽にお読み下さい。

(学生) 井上先生、今日はよろしくお祈りします！先生が新見公立大学に赴任されたのって、いつのことでしょうか？

(井上) 2023年の4月で、それまでは岡山大学病院に長く勤めていました。もともとは精神科医で、リエゾン精神医学を専門にしています。

(学生) 「リエゾン」という言葉、あまり聞きなれないのですが、その意味を教えてください。

(井上) リエゾンとは、フランス語で連携や橋渡しのことです。例えば、患者さんが一般病院に入院すると、眠れなくなったり気持ちが落ち込んだりといったように、何らかの精神的な問題を抱えることがあります。

(学生) 内科に入院したら、まず主治医の先生や看護師さんが話を聞いてくれますよね。

(井上) その通りです。ただ、もし内科の先生が「自分では対応が難しいので、精神科の専門の先生に相談しよう！」と考えた場合、患者さんから同意をいただいて院内の精神科医に紹介し、連携しながら治療やケアを行うこととなります。

(学生) なるほど。それこそが「リエゾン」ということなのですね。

(井上) とは言え、中山間地域の一般病院では、この連携があまりうまくいきません。主な理由は、院内に精神科医がいないからです。

(学生) それは、患者さんにとっても困りますよね。

(井上) 実はこれって、中山間地域だけの問題ではありません。全国的にも、院内に精神科医がいる一般病院は、たったの一割にすぎないのです。

(学生) そんなに少ないのですか・・・？

(井上) ビックリしますよね。そこで、今後私が取り組みたいのは、新見市内の一般病院とネットワークをつくり、入院患者さんが精神的な問題を抱えた時に、主治医や看護師さんなどと連携してより良い治療やケアを患者さんに提供できるような仕組みを立ち上げることです。

(学生) まさに「リエゾン」ですね。先生、頑張って下さい！一つ質問なのですが、入院患者さんの場合、どのような病気で精神科医に相談があるのでしょうか？

(井上) 一番多いのは、「せん妄」です。せん妄って、知っていますか？

(学生) ……すみません、教えてください。

(井上) この広報誌は、一般市民の方も読まれるそうなので、少し説明しておきますね。せん妄は、からだの病気で入院した患者さんや手術を受けられた患者さんによくみられるのですが、夜眠れなくなるだけでなく、時間や場所の感覚が鈍くなったり、会話の内容が辻褃の合わないものになったりします。さらに、怒りっぽくなる人もいれば、からだについている点滴のチューブを自分で抜いてしまうこともあります。

(学生) すっかり人が変わったように見えると、ご家族は動揺されるでしょうね・・・。

(井上) その通りです。よく「認知症になったのでは？」と心配するご家族もおられますが、せん妄と認知症は全く別のものです。せん妄はその原因を取り除くことができれば、回復する可能性が高いとされています。詳しい内容については、私が岡山大学病院に勤務していた時に作ったパンフレットがありますので、そちらをぜひご覧ください（☞「せん妄 パンフレット」でネット検索して下さい）。

せん妄の予防と 対策について



「せん妄」は一見すると認知症と間違われやすいですが、まったく異なる病気です。注意深く観察することで「せん妄」を早めに発見し、解決することができます。せん妄の予防と対策について、一緒に考えていきましょう。

同窓会 だより

同窓生の近況を
報告します。



新見市立 上市認定こども園

中島 萌 (新見公立大学 健康保育学科1期生)

4月より、新見市の認定こども園で3歳児クラスの担任として働いています。まだまだ初めての経験ばかりで上手くいかないこともありますが、周りの先生方が丁寧に教えてくださったり、子どもたちの笑顔に励まされたりしながら過ごしています。子どもたちは毎日いろいろなものに興味津々で、一緒に過ごしているとワクワクする出来事が沢山あります。カニ、トンボ、カブトムシをつかまえて嬉しさいっぱいの子どもたち。育てた野菜や花でつくったごちそうやジュースに目をキラキラさせる子どもたち。新見の豊かな自然を感じて保育をしています。大変なこともありますが、子どもたちと全身で楽しさを感じながらこれからも頑張っていきたいと思えます。



済生会 熊本病院

田崎 美織

(新見公立大学 地域福祉学科1期生)

現在、済生会熊本病院の医療ソーシャルワーカーとして働いています。日々様々な疾患や社会背景を持つ患者さんと出会う中で、各社会制度の説明や申請支援、救急外来からの転院調整等に関わっています。当院は高度急性期病院であり在院日数も短いことから、短期間で支援を展開していく力が求められます。まだまだ分からないことも多く、自分自身のスキル不足を感じていますが、在学中、講義や実習、MSWの勉強会やゼミナール、アルバイト等を通して多様な価値観を持つ方々と意見交換ができたことは、業務を行う中で大変役立っていると感じています。今後も医療の知識や社会制度、地域特性や連携機関の情報を学びながら高度急性期病院におけるソーシャルワーク技術を磨いていきたいと考えています。



幼児教育学科23期生同窓会

7月30日、広島駅近くのカフェで同窓会を開催しました。卒業からちょうど20年。安達先生、山内先生、埜さんと11名の卒業生が集まり、仕事や子育てなどの話であっという間に時間が過ぎました。次回は今回参加できなかったみんなにも会えますように！



岡京子先生を囲んで同窓会



卒業生による音楽の集い



卒業生たちが遊びに来ました

健康保育学科

| | | |
|--------|------|----|
| 関東 | 茨城県 | 2 |
| | 埼玉県 | 1 |
| | 千葉県 | 1 |
| 中部 | 新潟県 | 1 |
| | 石川県 | 3 |
| | 福井県 | 7 |
| | 長野県 | 3 |
| | 岐阜県 | 1 |
| | 静岡県 | 1 |
| | 愛知県 | 4 |
| 近畿 | 三重県 | 3 |
| | 京都府 | 2 |
| | 大阪府 | 2 |
| | 兵庫県 | 24 |
| 中国 | 和歌山県 | 1 |
| | 鳥取県 | 14 |
| | 島根県 | 11 |
| 四国 | 岡山県 | 59 |
| | 広島県 | 11 |
| | 山口県 | 4 |
| | 徳島県 | 8 |
| 九州 | 香川県 | 3 |
| | 愛媛県 | 24 |
| | 高知県 | 1 |
| | 福岡県 | 1 |
| | 佐賀県 | 2 |
| | 長崎県 | 6 |
| | 熊本県 | 1 |
| | 大分県 | 5 |
| | 宮崎県 | 5 |
| | 鹿児島県 | 1 |
| 総計 | 212 | |
| うち男子学生 | 21 | |

看護学科

| | | |
|-----|--------|-----|
| 北海道 | 北海道 | 4 |
| 関東 | 千葉県 | 1 |
| | 富山県 | 1 |
| 中部 | 福井県 | 2 |
| | 長野県 | 2 |
| | 静岡県 | 3 |
| | 愛知県 | 1 |
| | 滋賀県 | 2 |
| 近畿 | 京都府 | 3 |
| | 大阪府 | 5 |
| | 兵庫県 | 47 |
| | 和歌山県 | 4 |
| 中国 | 鳥取県 | 23 |
| | 島根県 | 23 |
| | 岡山県 | 88 |
| | 広島県 | 45 |
| | 山口県 | 11 |
| 四国 | 徳島県 | 13 |
| | 香川県 | 6 |
| | 愛媛県 | 25 |
| | 高知県 | 2 |
| 九州 | 福岡県 | 4 |
| | 佐賀県 | 3 |
| | 長崎県 | 8 |
| | 熊本県 | 5 |
| | 大分県 | 3 |
| | 宮崎県 | 3 |
| | 鹿児島県 | 3 |
| | 沖縄県 | 1 |
| | 総計 | 341 |
| | うち男子学生 | 20 |

地域福祉学科

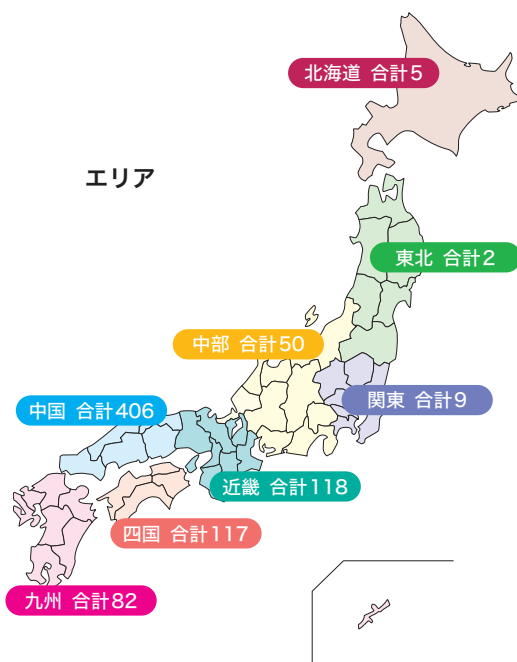
| | | |
|--------|------|----|
| 北海道 | 北海道 | 1 |
| 東北 | 宮城県 | 1 |
| | 福島県 | 1 |
| 関東 | 茨城県 | 2 |
| | 群馬県 | 2 |
| 中部 | 新潟県 | 1 |
| | 富山県 | 2 |
| | 石川県 | 3 |
| | 福井県 | 3 |
| | 山梨県 | 1 |
| | 長野県 | 1 |
| | 岐阜県 | 1 |
| 近畿 | 静岡県 | 1 |
| | 愛知県 | 8 |
| | 三重県 | 1 |
| | 京都府 | 3 |
| 中国 | 大阪府 | 2 |
| | 兵庫県 | 14 |
| | 奈良県 | 1 |
| | 和歌山県 | 3 |
| 四国 | 鳥取県 | 14 |
| | 島根県 | 11 |
| | 岡山県 | 49 |
| | 広島県 | 18 |
| | 山口県 | 4 |
| 九州 | 徳島県 | 9 |
| | 香川県 | 5 |
| | 愛媛県 | 20 |
| | 高知県 | 1 |
| | 福岡県 | 5 |
| 九州 | 長崎県 | 6 |
| | 熊本県 | 1 |
| | 大分県 | 6 |
| | 宮崎県 | 4 |
| | 鹿児島県 | 8 |
| | 沖縄県 | 1 |
| 総計 | 214 | |
| うち男子学生 | 62 | |

助産学専攻科

| | | |
|----|-----|---|
| 中国 | 岡山県 | 6 |
| 総計 | | 6 |

大学院

| | | |
|--------|-----|----|
| 近畿 | 兵庫県 | 1 |
| 中国 | 岡山県 | 15 |
| 総計 | | 16 |
| うち男子学生 | | 2 |



合計789

人事異動

ごくろうさま

【退職】

| | | |
|--------|------|--------|
| 健康保育学科 | 特任教授 | 高月 教恵 |
| 地域福祉学科 | 教授 | 岡 京子 |
| 地域福祉学科 | 特任教授 | 八重樫 牧子 |
| 地域福祉学科 | 特任教授 | 小山 正善 |
| 健康保育学科 | 教授 | 松本 好生 |
| 地域福祉学科 | 教授 | 和田 美智代 |
| 看護学科 | 講師 | 長崎 恵美子 |
| 看護学科 | 講師 | 赤田 いつみ |
| 看護学科 | 助教 | 平田 知子 |

【転出】

| | | |
|-----|----|-------|
| 総務課 | 主査 | 梶原 基典 |
| 総務課 | 主事 | 藤原 悠三 |
| 教務課 | 主事 | 安原 知章 |
| 教務課 | 主事 | 近藤 七海 |

どうぞよろしく

【新採用】

| | | |
|--------|----|--------|
| 看護学科 | 教授 | 井上 真一郎 |
| 看護学科 | 講師 | 川下 菜穂子 |
| 看護学科 | 講師 | 浅原 佳紀 |
| 看護学科 | 助教 | 春藤 友香 |
| 地域福祉学科 | 講師 | 村上 留美 |
| 地域福祉学科 | 講師 | 高橋 順一 |
| 総務課 | 主事 | 太田 雅之 |
| 学生課 | 主事 | 藤井 陽大 |
| 教務課 | 主事 | 南 舞衣 |

【転入】

| | | |
|-----|----|-------|
| 総務課 | 主事 | 三輪 亮太 |
| 学生課 | 主事 | 柴田 知瑞 |
| 教務課 | 主事 | 八石 麻未 |

【昇任】

| | | |
|--------|------|-------|
| 健康保育学科 | 教授 | 芝崎 美和 |
| 健康保育学科 | 教授 | 渡部 昌史 |
| 健康保育学科 | 准教授 | 入江 慶太 |
| 看護学科 | 教授 | 矢嶋 裕樹 |
| 看護学科 | 講師 | 山本 裕子 |
| 看護学科 | 講師 | 安藤 亮 |
| 総務課 | 課長補佐 | 真治 章 |

新任教員からご挨拶



井上 真一郎 先生
看護学科
教授

看護学科ならびに看護学研究科の教授として着任いたしました。リエゾン精神医学、サイコソングロジー(精神腫瘍学)、産業精神医学が専門です。宜しくお願いいたします。



浅原 佳紀 先生
看護学科
講師

この度、精神看護学の講師として着任いたしました。一日でも早く皆様の力になれるよう精進いたします。ご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願いいたします。



村上 留美 先生
地域福祉学科
講師

4月より地域福祉学科に着任しました。現場での経験を活かし、学生と共に成長していきたいと考えています。至らぬところもあるかと思いますが、宜しくお願いいたします。



川下 菜穂子 先生
看護学科
講師

4月に着任しました。専門領域は母性看護学です。学生たちと共に思春期や女性のライフサイクルについて学びを深めたいと考えています。よろしくお願いいたします。



春藤 友香 先生
看護学科
助教

4月から基礎看護学領域の教員として着任しました。学生が充実した大学生活を送れるよう、サポートしていきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

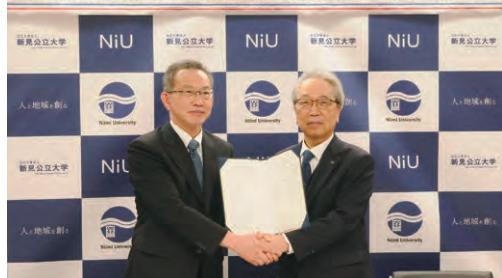


高橋 順一 先生
地域福祉学科
講師

令和5年度より本学科に着任いたしました。地域とのかかわりを通して学生にも種々の学びがあると伺っています。大学や学生、地域に貢献できるように精励する所存にございます。

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科小児医科学教室と小児心身医療の共同研究に関する協定を締結

大学大学院医歯薬学総合研究科小児医科学教室 新見公立



新見公立大学では、2023年2月22日に岡山大学大学院医歯薬学総合研究科小児医科学教室と小児心身医療の共同研究に関する協定を締結しました。

この協定は、新見市内の小児心身医療の課題について研究活動を連携・協力して推進することにより、地域社会の発展及び地域を支える人材の育成並びに、両校の教育・研究の充実に寄与することを目的としています。

当日は、本学において、公文裕巳学長と岡山大学小児医科学教室の塚原宏一教授が、新見市の小児心身医療の充実にすることなど全6項目の連携・協定する事項について、協定を締結しました。

本学では、NiU新見駅西サテライトの発達支援センターの活動において、発達障害や不登校の子どもをサポートしていることから、同小児医科学教室と共同して、不登校、発達障害等の問題を抱え悩んでいる方々に対し、就学後の児童に係る支援者の研修会や事例検討会等を通して、市内の子どもたちの健やかな成長を支援します。

独立行政法人国立病院機構岡山医療センターと小児の発達障害領域についての共同研究に関する協定を締結

新見公立大学では、2023年3月10日に独立行政法人国立病院機構岡山医療センターと小児の発達障害領域についての共同研究に関する協定を締結しました。

この協定は、新見市内の小児の発達障害領域を中心とする小児医療の課題について研究活動を連携・協力して推進することにより、地域社会の発展及び地域を支える人材の育成並びに双方の教育の充実に寄与することを目的としています。

当日は、本学において、公文裕巳学長と岡山医療センターの久保俊英院長が、新見市の小児の発達障害領域を中心とする小児医療の充実にすることなど全6項目の連携・協定する事項について、協定を締結しました。

本学では、NiU新見駅西サテライトの発達支援センターにおいて、発達障害や不登校の子どもをサポートしていることから、岡山医療センターと共同して、問題を抱え悩んでいる方々に対し、専門医師が相談やカウンセリングを通して市内の子どもたちの健やかな成長を支援します。



「ひだまりのいえ」を開設して

名誉教授 高月 教恵

新見公立大学健康保育学科4年制完成年度が終了（一期生卒業）しましたので、私は今年3月31日付けで特任教授を退職しました。そして、4月に名誉教授の称号をいただき、さらに研究員の辞令をいただいて、気になる子どもの遊び場の準備にとりかかり、4月28日に教育支援センター教育実践部「ひだまりのいえ」を、新見駅西サテライト（学生アパート“えきよこ”1階）に開設しました。「ひだまりのいえ」の趣旨は、「一人ひとりの“らしさ”を大切に、子どもの興味・関心にしたがって、モンテッソーリ教具を使って遊ぶことによって、感性と能力を高め、生きる力を育てる」ことです。現在（8月）、11名の子ども（発達障害児を含む）がリポートして通ってきています。久し振りの子どもとの日々ですが、初心にかえって、子どもの様子を見ながら、環境（教具・教材）を整えて、援助・支援しています。10月からは、学生と共に、インクルーシブ保育・幼児教育について考えながら実践・研究していきたいと思っています。新見に来られたら、駅横ですので、ぜひ立ち寄って下さい。

開設日時：火・水・金・土（祝日は休み）

午前の部10時～12時 午後の部13時半～15時半

場 所：駅西サテライト こども交流広場 ひだまり

定 員：午前／親子3組 午後／親子3組

参 加 費：（傷害保険料）：一人100円（当日支払い）

申し込み方法：

各回事前申し込みが必要です。新見公立大学ホームページのQRコードから申し込みが可能です。駅西サテライトに来館または電話での申し込みもできます。 電話：0867-72-0610



まんさく

2023年9月号
Vol.65



編集
後記

数年前から続いていた新型コロナウイルス感染症の影響で、私たちの生活は大きく制限され、多くの方が不安やストレスを抱えていたことと思います。現在は、「5類感染症」へと引き下げられ、ようやく制限のない生活に戻りつつあるということに心から喜びを感じます。

本学のオープンキャンパスも、今年度は同伴者数に制限を求めないなど従来の来場型のオープンキャンパスを開催することができ、県内外から多くの方にご参加いただきました。対面での模擬授業やミニ講義、在学生による企画で、本学の魅力を直接肌で感じていただけたと思います。

大学は、自分の夢への通過点にしか過ぎないかもしれませんが、そこで経験した出来事や出会った人とのつながりは一生ものです。卒業してからも、なにかつらいことがあったときにふと当時のことを思いだし、心の支えになってくれます。皆さんにとって、そんな存在にこの新見公立大学がなれば、と願っております。

今後もこれまで先輩が築いてきた新見公立大学の伝統を継承し、さらに新しい風を入れながら、本学のさらなる飛躍ができるように教職員一丸となって努めてまいります。

卒業生の皆さま、地域の皆さまには、変わらぬご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。(柴田)

発行

新見公立大学

〒718-8585 岡山県新見市西方1263-2

TEL.0867-72-0634

FAX.0867-72-1492

URL: <https://www.niimi-u.ac.jp/>



編集

広報委員会

広報部長

三上 ゆみ

広報委員(50音順)

| | | |
|-------|-------|-------|
| 浅原 佳紀 | 安藤 亮 | 磯本 暁子 |
| 入江 慶太 | 岸本由梨枝 | 柴田 知瑞 |
| 高橋 彩 | 広瀬 綾子 | 柳迫 三寛 |
| 山内 圭 | 山根 智幸 | |

使用電力の約30%を太陽光発電に！

本学は、令和4年5月27日に(株)ガットと「ゼロカーボンの実現に向けた連携協定」を締結し、環境省の『地域レジリエンス・脱炭素化を同時に実現する公共施設への自立・分散型エネルギー設備等導入推進事業補助金』を利用した再生可能エネルギー導入事業(県内教育機関初)に取組み、令和5年3月から使用電力の約30%を太陽光発電に切り替えることができました。

【設置場所と発電規模】

総発電容量：約 337.15kW(550W/枚発電パネル×613枚)

①地域共生推進センター棟 ②学術交流センター ③体育館

【導入効果】・CO2削減：約 132.6 t/年(予測値)

・再エネ率：約 29.8%(予測値)

【導入価値】・電気代削減：約 250万円/年(予測値)

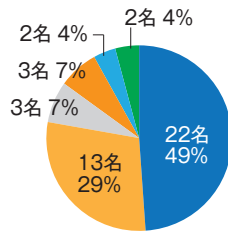
本学は、高台にあるという地利的優位性、保健・福祉系の教員に加え防災士資格を有し、目指す学生が多いという人的優位性から高い次元で優良な避難所環境を提供できていました。

今回、太陽光受電環境及び非常(停電)時の電力供給システムを整えたことで、エネルギー優位性が確保できました。この三位一体の優位性を活用し、『レジリエンスユニバーシティ新見公立大学』としてさらなる地域貢献を推進していくこととしています。



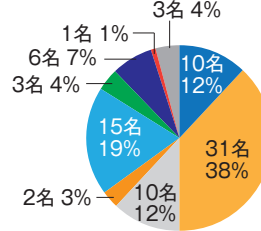
2022年度 卒業生 就職・進学状況

健康保育学科



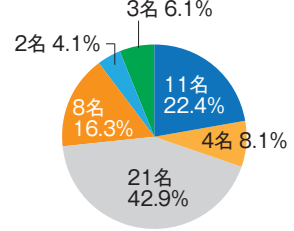
- 公立保育職(幼稚園・保育所・認定こども園)
- 私立幼稚園・保育所・認定こども園
- 施設
- 公務員(一般行政)
- 進学・留学
- 営業その他一般職

看護学科



- 大学病院
- 国立・公立・公的病院
- 民間病院
- 訪問看護ステーション
- 保健師(県・市町村)
- 養護教諭
- 進学(助産・養護・大学院)
- 一般職
- その他

地域福祉学科



- 公務員(県福祉職・市町村一般職・福祉職)
- 社会福祉協議会
- その他福祉関係
- 医療機関
- 一般企業
- 進学

おめでとう

新見公立大学
健康科学部 地域福祉学科

第35回 介護福祉士国家試験

合格率 100%

第35回 社会福祉士国家試験

合格率 86.7%

(福祉系大学等新卒合格率65.0%)

新見公立大学
健康科学部 看護学科

第112回 看護師国家試験

合格率(新卒者) 97.5%

第109回 保健師国家試験

合格率(新卒者) 100%

新見公立大学 助産学専攻科

第106回 助産師国家試験

合格率100%